

昔のあなたとちがつて、今のあなたは経験もある、年から来る自信もある、ましてや私には失望してゐる、家庭的な淋しさもある、何時召集来るかわからないと云ふ時間的余裕なさの焦燥もある。あなたが好きな人が出来たとしても、これもし様がありません。あなたは前に私をだました(う)事があつた。

私がヤキモチやくと云つて、T子さんが上京してあなたと一諸にゐた事も一年以上かくしてゐた。又鎌倉にゐた時、Mさんがあの家に暮した事も、九年もかくしてゐましたね。私から見れば、さう見える。あなたに云はずと、云ふ必要があつた事でせうが。又、そんな事が始まつてゐるのではないかしら。さうだつたら、どうぞ今の中にほめかしておいで下さい。とどり乱したり騒いだりせずに覚悟をつけたいと思ひます。

昔あなたが何と云つた、とか過去の約束を持ち出して馬鹿なまねをするには、私も大人になりました(せ)ようです。私の性質や年令や不健康や、仕事に対する無理解やらは、あなたがさうなつてもし方ない事を示してゐます。私には全く分はありません。あなたにはもつと学問的でやさしくてホーヨー力のある人が必要なのですもの。例へばT子さんの様な女の人、以前はとに角として、どん／＼進歩し、成長発展出来る人が必要なのです。私は9年前と性質や精神の動き、考へ方に至つては、全く變つてゐませんもの。それなのにT子さんは、私の知つてゐたT子さんと、あなたの信じてゐたT子さんとは別人の如く變つて、みごとに作り變へて立派に成長したんです。

(何故T子さんの事を今ごろ持ち出したと云ふと、あの手紙の束の中に当然あると思つてゐたT子さんの手紙がなかつたので、それはあなたが経堂へ持つて行つたと思ふので、あなたのきもちは又、T子さんに帰つたと思ひます。さうなつても当然で、ヤキモチもうらみも出来ないではありませんか。)

私が以前の生活を、あなたを知るに及んでこはす事が出来たのは、全く幸でありました。私はあなたと生活する事によつて、すこしは自身をきたへる事が出来たように思へ、追求する情熱と云ふものも知つた様に思ひます。併し実は一寸も變らなかつた。あなたは私との生活によつてマイナスばかりを得たのです。私は常にあなたを傷け、悪い影響を与へ、信用をなくさせ、一生涯の精心こめての仕事のぢやまばかりをして来たのですね。若しもあなたの伴侶がT子さんの様な人であつたなら、あなたは随分幸福になれたのです。T子さんのたゆまぬ知識慾は、夫妻共に凄く勉強家にしたでせう。あの人は家庭の仕事も合理化したでせう。ましてや家庭的雑用で、あなたを苦しめる様な事はきつとない。あなたの思ひ通り理想的な、学者的な家庭を建設してゐたでせう。あなたは何の心おきなく、仕事に専心し、立派な仕事を今までにしたにちがひありません。愛情の点でも、充分満足を与へ得たでせう。

それなのに私はあなたにとって（否、誰とでも、私の夫となつた者は）、カラミテイ（鬼子母神）だったのですね。鬼子母神にゐた占者が、私の鼻のほくろを見て、此のほくろを持つてゐると、夫にとつて其の女は厄病神だ、早くとれと云ひましたよ。ほくろに一切の責を負はせる訳ではありませんが、私の小さなガンコな自我は、其の時、既に誰にでも見えてゐたのですね。私は雀百まで跳りを忘れずの類で、ついに自我から抜けられないのですね。私は進歩も成長も發展もない人間だったのですね。

それなら何で不足を言ふ事がありませう。あなたが冷淡であつても、若しか他に好意を持つ人が出来たとしても、当然受くべきものだつたのです。

ここまで一気に書いて来たたら、何時のまにか始めに書きしるした様な重苦しい憂鬱は影をひそめました。いろいろはつきりした形にしたので、返つて落つたのです。探しようのない不安のもとをはつきり探さなかつた苦しさだったのですね。今は気持も落ちつきました。

あなたが私を嫌ふなら、どうぞ徹底的に嫌つて下さい。好きになれる人がゐたなら、好きになる事にテイコウを感じる事のないように。さうして私への責任感や憐びん感でござなりを行はぬ様に。本当の事をおきかせ下さつても、割合に平静に受けとれる覚悟をつける様努力します。さうなつたら悲しむのは私だけで、他は皆そのやり方に同意するでせう。悲しいけれど、私の身から出た錆です。悲しいと云つても、浮調子で無考へな私の事です。此のチャンスによく考へると云ふ態度をとらず、まもなく浮上する材料をみつけて、新に出発するかも知れませんね。其の一つとして、九月から役場で仕事をみつめて、多忙乍ら（急務）猛勉しようと思つてゐたら、東京からも仕事がかかつて来ました。仕事そのものは応接役でつまらないが、身体は楽だし暇も多いようだし、相手は学校時代の友人（渋谷のお寺の娘）ですし、サラリイは200円以上だ相ですから、もう一度東京に出てみようか、とも思ふのです。

折角こちらに来ましたが、恢復すべき健康は恢復したようですし、一人の生活なら、そして仕事を持つたなら、又、再出発出来るかも知れません。こちらにゐても、私は一寸も役にはたためし、さうかと云つて勉強時間がたつぷりとれる訳でもないし、中途半端な立場ですから。家は何とでも云ひつくるふ事は出来るでせう。勿論東京に行つたからとて、あなたにうるさい事を持ちこむ様な事はしない覚悟です。あなたの方都合次第で、お訪ねする事もしませんし、一切の迷惑はおかけ致さうとは思いません。仕事は割に返事を急ぎますから、あなたのお意向を問ひ度く存じます。

ここまで書いて、東京の仕事の件の方は、私が又、例の癖を出して、あなたに對抗的に報復的に行動しようとしてゐる

のかも知れないと感じます。これは早速断つた方がいいでせうね。かう云ふ種類の手紙をあげる事それ自身が、もうあなたの仕事のボウ害です。もうぐちは止めませう。あきらめる事に専心致します。さうして明日から、勉強に突進致します。憐びんからの方便的な慰め手紙は下さらないように。私は此のチャンスに自我とは何か、よくよく考へる事に致します。さうして考へられたら、こんなすねた様に見える手紙でなく、けんきよな気持でお手紙かきませう。ちつともお便りありませんが、引越はお済みでせうね。いろいろと大変だつた事でせう。お気の毒でした。

いま3時のお茶にゆきましたら小荷物が十三、四個届きました。単衣もの(箱)は、洗濯して送るのですね。明日、洗濯屋に持つてゆきますから、来月始めには送れるでせう。梅干とちりめんチャコは届きましたか。ちりめんぢやこはもうすこしある様ですから、御入用なら送ります。

本はあなたがどんなお気持でる様とも、そんな事にかゝわりなく大切に保管致しますから御心配なさらぬように。あなたが帰つてからこつち、毎日〳〵あれこれ考へて憂鬱でたまりませんでした。何も手につきませんでした。あなたを失ふ事を恐れたんですね。だけど、私がどんなに下らない女であるかすこし解つた様に考へられましたから、一其の私に無理やりあなたを縛りつける事は本当に悪い事だとわかりました。あなたは本当に大切な仕事があり、意義ある仕事の果せる人なので、その人の生活を邪魔する事は、歴史の進展をばむ事なのでせうね。今後、妻としてでなくとも友達の一人にしておいてくれ、ば、私も一生懸命、今の状態から立ち上る様に努力致します。

本当に八年間もあなたの邪魔ばかりして来た事をおわび致します。結局十年近い年月一諸に暮し乍ら、私はあなたとも、ましてあなたの仕事をも全然理解せず、しようともしなかつたのですね。これはすねて嫌がらせを云つてゐるのではありません。私の事に気を使はないで、あなたの望む通りになすつても一寸も異議はありません。あなたがはつきりさせる事が嫌なら、誰にも何も云はなくてもいいでせう。私も何も云ひませんから。

確かに私はけちな話らぬ宣伝如きの口先ばかりの人間ですね。みせかけだけで中味のない、みつちゃんの云つた通り冷酷で意地悪で利己主義でかたまつてゐるんですね。シルヴィと云はれた時は情ないと思つたけれど、シルヴィ程の対人関係の巧さもない。あの人程の生活力などとてもない。ぐちつばい他力本願の、云々。

もうこんな風になると自己嫌悪も正道をはづれ、やけに近いから止めませう。明日から勉強します。変なヒステリイも起きぬ位の自信はつきましたから、どうぞ御心配なきよう。

唯、余りにも淋しい、悲しい事は事実。一人芝居と云はれようと、これがうそのない心境の過程です。どんな顔をしてゐるか小さい鏡を一寸のぞいたら、何時(も時)と一寸も変らぬヒョキン顔で、唇を光らして目を光らせてゐました。もうくくやめませう。あまりぐちも長すぎた。眉をよせてゐる不機嫌顔が目に見えます。では、本当にさようなら。

幸子

### 謙一から幸子あて（一九四四年七月二八日の記）

廿八日朝

昨日君へ長い引越し報告の手紙を書いて間もなく、本室へ行つて引越運送費をもらひ、いろんな人と会つて話したあげく、三時頃銀座に出て本を二冊買ひ、食べ物を買ひましたが何もなくて、四時すぎ原宿へ行きました。もうひろちやんの荷物もなくなつて居りましたが、誰もゐない家の中は、荷物の出たあとの紙くづ、木片、わらぎれ、布切、箱のふた、こわれたびん等々が、相かはらず足のふみ場もなく散乱してゐました。防空壕で焼けるもの、坂田家のふろで焼いてもらふもの、何かの役に立ちさうなもの、新聞紙、びん等を夫々選りわけ、先づ二階をテッテイ的に掃除し、ススハラヒもし、押入の中もハキ出し、次に階下とお勝手をも大掃除し、焼くものは焼いて、どうやら一通りの整理ができました。辻岡さんが来て話すのには、ひろちやんはもう辻岡さんの四畳半へ移り、今日は高円寺へ行つて泊つて来るとのことで、僕からもよろしく頼んでおきました。

すつかり終つたのは七時近く、幸ひ雨もやんだので、肩からのカバンヘコーモリを引っかけ、右手にラジオ、左手に紙屑籠（小物とスタンドとで一杯の）をさげて、大家さんからひろちやんについての愚痴をながく聞かされ（電灯を昨夜つけっぱなししてゐたと云ふ）、今後のことや配給物のことをよろしく頼んで、またもラッシュにメチャくにもまれながらうんざりして帰り、眼まひする程くたびれてゐたが、朝の残りのジャガイモとトマトとパンとの遅い夕食でやつと人心地をつけ、さてあなたの手紙を見たのです。昨夜の中に返事を書きかけたのですが、何としてもくたびれて、寐て了ひました。

今、朝飯前です。今日はどうやらお天気らしい。雨の中を荷物を下げに出かけるのにはもう閉口しました。今日もう一回取りに行つて（米の配給もある）、それであとは辻岡さん(お)にでもあづけておしまいにしたい。

ところであなたのお手紙。

一口に云へばあなたの不安は不要です。基本的には僕のあなたへの愛情は不動であり、将来も決してゆるぐことないと思ひ切ることが出来ます。あなたの方で僕を愛し信じてくれる限り、僕はあなたを愛し信じます。前便にもかいたやうに、今年になつてから、あなたへの僕の気持ちが多少冷淡になつてゐたのは事実です。けれどその冷淡さも大体は、基本的な愛情の不動の上での冷淡だつたのです。

あなたの方で、僕が遠のいて行つたと云つてゐるが、僕に云はせると、僕の相対的冷却の原因は、あなたが僕から遠のいて行つたことにあつたのです。あなたが僕の欲求に関心を示さず、僕の生活へ合体して来ず、僕のあなたへの心尽しをも感受しようと思はず、その結果の僕の不満のあらはれを、ただ気むづかしいとかかんしやくもちだとか我がままだとか、そんな風にばかりとつて、僕の本当の要求、あなたの愛情への飢渴を察しようとしなかつたのです。そして食物がなくなれば信州へ帰ると云ふ風な、僕には美に淋しい意向を不用意に洩したりして、僕を、あなたとの協同生活に希望をもてなくさへさせたのです。僕は昨年後半から仕事のことであせり、仕事の出来る生活条件をつくることにあせりにあせつて、そのため、みつちやん達との生活をも早く終結させたかつたが、そんなことを云ふのは人間が小さいと思つてなるだけさう思はぬやうに努めて来てゐた。みつちやん達がやつと去つて今度はあなたに世話してもらへると思つたら、あなたは世話してはくれない。あなたとの結婚の第一原則が、二人の完全な平等であつたから、世話すると云ふことは原則的に我々の関係にはない、病気の時の世話は例外であり、それもあとで恩にきせかねまじい、ましてや普通に仕事をするのに、世話をあなたに期待し得なかつた。あなたは僕の悩む一切の障害を、後退的モチーフだとか云つて、それはさうにちがひないけれど、妻であり、愛する共同生活者であるなら、何故その後退的モチーフの克服に僕を助けてくれないのか、さう云ふ不満を僕に感じさせた。いはば僕が一番あなたの協力(労作の内容への希望さへも)を求め、その労作の条件をつくることへの協力)を要求し、熱求してゐる時、あなたは信州行きの希望さへもらした。これが僕の相対的冷淡の原因だつたのです。だがその後事情はかはつた。戦局は二人の心理の行きちがひなんかにはこたはつておれない程切迫し、おまけにあなたが病氣になつた。あなたの病氣をいかに僕が自分のせいにし、ひげ目に感じたかはあなたには知らなかつたでせう。僕は信州のお母さんや不二ちゃんにまであやまりの手紙を書いた。あなたの生命と生活を保全したいと云ふ気持ちが現実化し、その頃まで出来るかどうか余りよくわからぬが、出来れば疎開したいくらいに気が持たつたのが、決定的に疎開せねばならないと思ふに到つた。さうすれば本も疎開出来る。

かうして僕は自分の原稿や仕事でいううつになるほどせきたてられあせり乍ら、とにかく貴女と荷物とを疎開させることに全力をあげねばならなかつたのです。その間にも我々の生活に他人がは入つて、二人の心情の合体をさまたげた。大体昨年のみつちやん達との生活は我々には実にマイナスだつた。あの生活自身、僕とあなたとを引きはなした。利ちやんの来たこともやはりさう云ふ結果になつた。かうして疎開したので。

この間僕の仕事中心の気持が強くはたらきました。僕としては「仕事を中心に二人の生活の協力と統合を強めて行きたいし、さうあるべきと思つた」のに、それが出来ないのです、つい仕事第一になつて、あなたへの感情の冷却となつたのです。

だが此の頃のあなたの手紙、この間の信州でのあなたとの生活で、また僕達は元へ戻つた気がする。貴女が僕を必要とし欲してくれることがわかつたから。さうなれば、僕の感情もまた貴女を欲して復活する。その感情が仕事の原動力になるやうにして、残された生活を創造して行かうと云ふ決意を得ました。

あなたの手紙で、僕は自信(あなたについての)をとり返しました。そのことは心から感謝します。だからあなたの方でも僕について自信をもつて下さい。これから、こちらの事情と信州の事情の許す限り、時々会ひに行きます。そして応召がなささうだつたら早くそちらへ移ることを考へませう。応召の時はどうにでもして貴女に会ひに行きます。

もう一つ書き忘れたが、あなたへの不満は、あなたが僕の両親の気持を僕達へ近よらせることに努力が不十分だと云ふ点です。之はあなたの方でも云ひ分あるにちがひないが、こちらもう大人なんだからもう少し何とかなりさうなものと云ふ感じがするのです。だが之は決定的に重要なことではありませんが、僕に万一のことあつた場合、それが可なり僕には重要になつて来さうです。

それはとにかくとして、僕の愛情の不動を信頼して元気になつて下さい。僕はあなたの協力を信じて大いに仕事を完成にまで努めますから。

では又。元気に、よく眠りなさい。もうぼつ／＼朝飯の仕度です。今日はパンと大豆とトマト、ナス。それに白すぼし。米の飯はメンドウめんどうくさい。

皆様によろしく。

謙一

僕にとつて大切なものを信州へ、あなたの下へ疎開させてゐることを思つて下さい。僕の将来はあなたとの生活にすべてである。その点僕はうたがつたことさへない。僕については、安心して勉強して下さい。そして僕の本の最初の

理解者になつて下さい(ちょっとむつかしいことですよ)。

ところでもう一枚余白があるから、この手紙の本文を書いたあとの生活を記してみませうか。

この手紙書き終つたのが七時前、それから日課の排泄をすませ、下からコンロを借りて(小使さんがすんだあと一時間以上も使へるので)そのままの火で先づ大豆(米からよりわけたもの)をいり、塩をふりかけ、その出来上る頃にパンを蒸すためのなべをかけ、パンが蒸せてゐる間に支那なべに油をひいて、なすのわぎり(なす三個分)を焼けるやうにし、パンが終るとすぐそのなすをかけ、その間にパンをオヒツにうつして今度はカボチャとジャガイモとを蒸す。之が今日一日分の食糧で、丁度一時間で出来上る。

朝食はパン(丸)一つ、カボチャ一切半、大豆、なす、白すぼし、それに下からもらつたお茶、冷したトマト二つ、どうです、大分たつぷりでせう。

朝食がすんで今朝はセンタクをしました。開襟シャツ、肌シャツ、それに信州で速成してもらつた肌着、くつ下二足(昨日の雨でぐしよ)、ハンカチ二つ、タオル一つ。それで九時になり、お茶を一杯のんで、この手紙を書き終り、之から仕事です。その間湯島詣を大半読みました。これが毎日続く生活なのです。で、若し出来るなら、かう云ふ生活に都合のいいやうなもの(薬品)があつたら、時々補給を願ひます。

### 幸子から謙一あて(一九四四年七月二九日の記、三〇日の消印)

七月廿九日

お手紙二本拝見。引越は大変でしたこと。一週間以上も(事実上)かかつたのですね。でも、もう全部おすみの事です。う。御苦労様でございました。後の整理はきれいにゆきましたか。ガラクタの始末は? ラジオは何ちらにゆきましたか?

Jさんではとうとう<sup>(たうとう)</sup>お金を返しませんでしたか。大家さんは何と云つてゐました? 其の中、私からも大家さんあて、永年のお礼の言葉を出しておきませう。

本日(廿九日)トランク一個到着致しました。まだ先日来の小荷物の中五、六個も其のまゝ解いてありません。今日、卵を十個貰ひましたので、送れるものなら送つてあげ度いと思ひましたが、如何せん、もみがらもないし。こちらでは

たいてい何処かから入つて来ますし、あれば—今日なんか早苗が三ツもかんしやくを起して握り潰し、猫たちのごち走になつた位で、もつたいたく使つてしまふ事うけあひです。今日は相当大きな鯉三匹、つきたてのお餅、自家製おこし、などのもらひものがありました。

毎日、トマトやパン食ばかりではやめますね。何か送つてあげたいのですが、料理したもので送れるもの、主食になるものと云つたらお餅位のものでせうか。お餅など当<sup>到底</sup>てい送る程はいりませんし、お母さんも此の頃の様に米の心配ばかりしてゐると、せち辛くなりましたので、尔<sup>な</sup>く<sup>と</sup>云ひにくい事です。何かうまいことあつた時、お送りする様心がけておきますが、其の程度ですから遠慮や気兼ねはなさらぬ様に。

謙一様

草々

### 謙一から幸子あて（一九四四年七月二九〜三一日の記）

廿九日夜。

今夜から、あなたへの手紙を日記の形に書いて三日分毎ぐら<sup>ら</sup>いに出しませう。

昨廿八日午後、殆ど最後として原宿へ行きました。やはり雨でコーモリをぶらさげ、小さいトランクの中にふろしきを入れました。この日は、鉄道便をすつかり出し、物置きを片づけ、米の配給をとり、大家さんと勘定をすませる予定でした。

物置きの片づけは予想より何層倍か厄介でした。時々雨もふるし、大家の婆さんが風呂のたきつけにするからと何でもかでも持つて行かうとするし、数年間たまつた瓶やあきかん、こわれた食器など、全くどうしようもない。結局大家さんと話して、防空壕へ埋めることにしましたが、一々物を選び出してゐるひまがないので、片つぱしから穴へぶちこんで、シャベルですつかり埋めて了ひました。身体は泥だらけ汗だらけになつたけれど、さしもらんごくを極めた庭も、どうかさつぱりときれいになりました。大家さんはせつせと運んで「五、六日分のふろのたきつけが出来た」と云つてゐました。あきびん等も自分で選り出して、いつの間にか持ち去つてゐました。新聞紙もみつけて、ゆづつてくれと云ふので、持ち去るにまかせました。何しろ僕は、去年大汗流してほつた防空壕を埋めるのに大汗かいて、他をかへり



みる余(お)うがありませんでした。ながしも大家の云ひなりに廿円で売り、防空桶やさをなどはただでやりました。すつかり庭を片づけた頃、ひろちやんが帰って来ました。利ちやんは廿六日にひつこして行つたきり音沙汰なし（あとで、寐込んでゐたことを知りました）。

間もなく亀屋さんがリヤカーで鉄道便の荷物六個を受取りに来ました。荷造りと運送とで卅五円ぐらいたらうとのこと。米は齋藤さんへ廿五キロ来てゐました。三人分として一ヶ月分来たのです。僕一人としては二ヶ月半分ぐらいになります。それより持つて行くのが大変で、おまけに米屋のふくろが破れてゐるので、どうしても別のふくろへうすさねばならない。齋藤さんの板の間を米だらけ豆だらけにしながら三つの袋と大ぶろしきとに辛うじて詰め込みました。米は大豆二割。もう暗くなつた家の中で、それらの米を凡ゆるアキカンや箱につめてトランクと大ぶろしきとに十五キロおさめ、あとは辻岡さんにあづけることにしました。米をまとめ終つたら八時半をすぎてゐました。そこへひろちやんが外食から帰つて来たので、明朝おし入れの残り物を辻岡さんへあづけ、すつかりもう一度掃除しておいてくれるやうに頼みました。まだ起きてゐた辻岡、齋藤、遠藤の三家へあいさつして、よたよた帰りました。真野のバアチヤンがあなたによろしくを云つてゐました。その夜も夜半にこぶら返りが起りました。疲れが足に出たらしいが、二晩つづいてのこぶら返りで、痛いし嫌でした。引つこして荷物に悩まされてゐる夢も見ました。之も続けざまです。

廿九日、雨と晴。大体晴れましたが晴れ切らない天気

本日の食物、いり大豆、ジャガゆで、小さいジャガとなすと白すぼしとの煮物、なす油焼き、トマト。例によつて朝の一時間の借り火でこさへて了ふ。

昼前に利ちやんが、昨夜辻岡さんへあづけた米の残り10キロを持つて来てくれました。僕の食物は割合たつぷり作つてあるので、利ちやんに昼食をお相伴させても大してこたえません。帰りになす、きうり、玉ねぎ（信州）、トマトをみやげにもたせました。彼の所はすぐ外食券をもらへなくて廿七日まで自炊だったのでせう。どちらかと云ふと廿五日彼の身体余りよくなく、相かはらず七度三分ぐらい出ます。今度の引越しても疲れたのでせう。どちらかと云ふと廿五日まで、利ちやんの方が積極的によく手伝つてくれました。ひろちやんは大ていどつかへ行つて家に居らず（平常は大てい家にゐたのですが）、しかも結局ひろちやんの引越が一番遅れて辻岡さんの救ひの手で助かつたのです。辻岡さんは義母から下宿人を一人おくのは世間態がよくないから二人おくやうに云はれてゐたのださうです。だが弁当は作れ

ないと云ふのでひろちゃんも外食です。

校正はやつと五分の一すみしました。数字が多いのと、一頁の字数が多いのとで校正も楽でない。一頁の字数は(菊判)一千四十五字(四百字詰原稿紙二枚半)、昨年のアメリカ史の字数は一頁六百字(一枚半)、二倍に近いほどせう。これで四百二、三十頁になるのですから、アメリカ史のやうにくめば、七百頁になったでせう。それにしてもこの本無事に出せるかどうか。戦局益々容易なりません。

世日(日曜)雨。

雨の中でせみがじいじいいてゐます。昨夕はひぐらしがなきました。ひぐらしをきくと鎌倉を想ひ、鎌倉を想ふと中島君の顔が浮びます。

漸く引越しづかれが出て、身体のおちらこちらいたみ、原稿をかかねばならないのにちよいとひるねしたら、二時間寝てしまひました。机と椅子とのかけにごぞをしいて寐てゐたのですが、ふと誰か来たらしいので眼をさますことはさましたが、起き上げれないのです。手足が呪縛されたやうで、どんなにもがいても身体が動かない。机の向ふ側<sup>⑤</sup>に誰かが立つてゐるが声をかけない、何だか害心を持つてゐるか或ひはただの人でないやうな気がする、だんく不安になつて早く起きやうともがくけれどどうにもならない。とど、どうでもなるやうになれと、まるで俎上にのせられた魚のやうな氣になつた時、眼がさめました。夢の中の机や椅子の位置が全く現実の通りで、思はず起き上つて机の向ふを覗くと、たしかしてあつた筈のドアが二つとも半びらきになつてゐました。プーシキンを読みながら寐たのと、疲れとのせいでせうか。

あなたの手紙を心待ちするが、昨日も今日も来ない。静かで、頭がうつとうしくだるい雨の日。

今日の食事。大豆(米の中からふるひ出したもの)、ジャガゆで、なすびと白すぼしの煮つけ、玉ねぎのいため、代用ココア入りのオヤキパン(之は朝と昼だけ)、トマト。夕方雨がやみました。夕食のジャガを食べ終つてラジオのニュースをきかうとしたら、利ちゃんひろちゃんやが雑品を持つて来てくれました。神棚やら小さいバケツ、等々。大家のバアチャンが僕のことでは岡さんや斎藤さんを悩ませて、辻岡さんの如きはヒスを起してバケツに水を一ぱい入れ、大家にぶつかけるといきまいて斎藤さんにとめられたよし。文句やぐちの材料に困らない人だらうけれど、僕が行くと何にも云はないくせに、どうしたのかと思つたら、廿八日の米の配給に、僕が沢山貰つたのに大家では十五日分しかなかつた

し、おまけに富次さんの分(乙)をさし引いてあつたので大ファンガイで、それ以来一切のふんまんを居なくなつた僕におしつけ、辻岡さんや斎藤さんに何時間もグチとふんがいとを洩しに来、いやみを云つたり配給物(僕への)を経営まで届けてあげると云つたり、僕への手紙が辻岡さんへ配達されると、とり返しに来たり、大分荒びてゐるさうです。こんなことだらうと思つたから、あなたに来させなかつたのです。

ひろちゃんには、辻岡さんによろしくおわびしておいてくれ、僕は八月一日にもう一度行くから、大家のバアチヤンも悪い人ぢやないが、人間が卑少ひせうでそこへいろく不幸や不偶ふぐが重つたからヒスになつてゐるのだ、人間とはそんなものだから、よく観察して、その根源を考へるやうにと云つておきました。

卅一日、雨。

今朝も雨であけました。今日の食事はジャガイも、ジャガとココアと大豆と白すぼし入りのオヤキパン、トマト、之だけです。朝はその三分の一をたべました。そこへあなたの廿七日附手紙がつきました。

あなたをこんなに苦しませて、僕もすつかり苦しくなりました。僕の態度がよくなかつたのです。この半年、いろんな不満をあなたへばかりさしむけて、本当に悪いことをしました。もつと感情的にでなく理性的に行動することによつて、必要な疎開なり何なりをはこぶべきだつたのです。僕の人間の卑少が、ついあなたへ感情的にアタリちらすことになり、意地悪にもなつたのです。事実、前便に書いたやうなあなたへの不満、感情の冷却はあつたが、その裏にはあなたへの痛切な欲求があり、あなたの方からの僕への熱情的な働きかけを心待ちしてゐたのです。こちらから要求するのでなく、あなたの心の働きから与へられることを待つたのです。何故なら、こちらから要求すると、我が儘と云ふことで片づけられさうだつたから。

だが前便にも書いたやうに、僕の貴女に対する飢渴は、戦局とにらみあはせねば、そのまま実現させ得ない事態になつてゐます。あなたの疎開の話がはじまつて以来の一切は、何よりも第一に戦局の切迫によつて決定され、他のことはすべて第二次的なのです。戦局の切迫、空襲必至、しかも応召もまちか、こう云ふ事情の中で、我々の生活をまもり、僕の仕事を少しでも多く仕上げしておくこと、之が一切を決定する主要理由だつたのです。その仕事も、本格的なもの材料をあなたと一緒に信州に送つて、そちらで何年かかかつてやるつもりだつたのです。今でもそのつもりです。

あなたの手紙で、僕があなたを嫌ひになり、あなたなしでやつて行けるやうになり、僕の氣持がTさんへ帰り、他の愛

情関係が出来かかつてゐる等々は、すべてうそです。まちがひです。僕があなたを愛し、あなたを益々必要としてゐることは前便で書いたとおりです。僕がTさんと一緒にゐたとか、M女史と暮したなどは乱暴な中傷です。Tさんが下宿へ来たこと、Mさんも鎌倉へ来たこと、後者は家へは入らなかつた、之が眞実です。現在の環境もあなたから自由になることではなく、あなたを安全にしておいて自分の余命を仕事にうちこめるやうにと思つて作つたのです。ああ云ふ風なことは書くものではない。僕を信じて下さい。その点では僕の方がはるかにしつかりとあなたを信じてゐる。

東京の就職をことわつて下さつてよかつた。でないとなのために苦しんで疎開したかわからなくなつて了ふ。僕はいろいろとあなたに文句を云ひ、意地悪を云ひ、アタリちらしたけれど、僕がどんなにあなたを愛し思ひ、ほこりにしてゐるかは、僕の日常生活を見てくれるなら直ちにわかる筈。僕はあなたを誇りにしてゐます。どうかあなたらしく、僕の気持、意図を、僕の云ひ足りない所まで洞察して、今の淋しさ苦しさを克服して下さい。そして勉強して下さい。あなたの勉強のやり方に、僕の不満をのべましたが、実際は女の子達を導いて行くあなたのやり方に心から感服して来ました。僕には人と一緒に勉強すると云ふ要素がない。人がやつても必ず僕が見なほさねば気がすまない。之はまだ器が小さいのでせう。

また僕があなたと結婚したことを自分でいかによかつたと思つてゐるかもあなたは充分見てくれる必要がある。僕の現在が、あなたによつて作られた、あなたとの協同生活を通じてこそつくられた、このことを僕はうたがふたことさへありません。僕の思想なり世界観なりにいかにあなたから吸収し、あなたと共に得て来たものが多いかをあなたならよくわかる筈です。あなたが僕を理解しないと云つたのは、僕の仕事、アメリカ史へ関心をもたないと云ふことが主で、他のことではなかつた。性慾のことでも、あなたによつて抑制の訓練を受けたればこそ、今その点だけは、あなたをさへ必要としなくなつた。

いづれにせよ、あなたの今のいううつは、あなたの想ひすごし(たとひその想ひすごしの理由がぼくの態度にも責任あるにせよ)のせいが多し。想ひすごしでなしに、この機会にお互ひにお互ひを検討し、将来の生活へそなへませう。はなれてゐると、想像の駒の手綱をひかえにくくて、いきほひいろくくと思ひすごしや臆断が多くなりますが、お互ひにそれを警戒し、戦局を思ひ、世界の歴史、人類を想つて普遍に通ずる生活をきづいて行きませう、元気に。

あなたの今日の手紙にあなたの精神のたたかひを見てうれしく思ひました。生意気な云ひぐさかも知れませんが。そしてあなたがその精神のたたかひに勝つことを信じ、僕もまた仕事へのたたかひにかりたてられます。

ただ、T子さんの手紙は、焼いてしまったと云ふことを納得して下さい。T子さんと僕との関係は、生活でなしにエピソードでしかなかったから、その手紙も今後の生活に関係がない、僕はあなたとだけ生活して来たのであり、今後もうであることをちかひます。今後あなたが、さうしたことで僕にあらぬ疑ひをもつとしたら、僕はその点に限りとりあはないつもりです。若しさう云ふことが目的なら、どうしてこんな研究室などへ住み込むでせう。昔のうそはあやまります。だがそのうそさへ、あなたが想ひすごすやうなことはなかったのです。あなたがそんな風にあらぬ想ひすごしをやる怖れがあつたので、かくしもしたと云へるのです。では又書きませう。

なほ、洗濯物は殆ど必要ありません。こちらにゐるとじつとしてゐるし涼しいので汗もかかず、シャツとズボンでねるまでゐられます。シャツだけほしいので、破れたやつを送りました。下着は隔日に洗たくしますが、昨今雨が多いので、余りやりません。

何か買つてほしいものあれば云つて下さい。火曜日に銀座と本屋とへ出ますから。

### 幸子から謙一あてはがき（一九四四年七月三十一日の記・消印）

本日（卅一日）郵便小包でPANTY二枚（廃物利用）送りました。脇あけのある方が左です。ゴムを使ったのは、適当な紐がなかつたので、あまり具合よくなかつたら、お返し下さい。

其の他緑茶1—4半斤、白す干、ふりかけを一諸（各）に入れました。

薬はメタポリンなら買へます。寛ちゃん（お）は辻岡さんへ下宿したんですか。何故高円寺へゆかないのでせう。嫌な子ですね。此の間の様なシャツ、御入用なら、もう二枚位作りませうか。

### 謙一から幸子あて（一九四四年七月三十一日〜八月一日の記）

七月卅一日夜、晴。

雨であけた今日、だが間もなく日が覗き、おひる前からはもうレッキとした土用の照りに、買ひ出しも苦勞となりました。八月二日にジャガの強制供出があるので、そのドサクサに少し買へました。一貫メ三元。この頃ジャガばかり食べ

るので、少し買ひ置く必要があります。

午後、伊藤書店の鶴田君が校正を持つて来ました。「ここは涼しいから楽しみにして来ますよ」と云ひながら三時間余り話し込んで、夕暮時に帰りました。ジャガとトマトとの夕食をすますと、小使さんの妻君（妻）がナスとキウリの漬物をもつて来てくれました。ツケモノは信州以来です。

食後畑の方へ散歩に行つて、馴染の家（鈴木氏）でキウリを十本買ひました。その場でもいでもらつたのだが、帰つて早速カワをムイテ、そのままガリ／＼食べました。小使さんに半分進呈しました。漬けてあげると云ふから、之からキウリ、ナスの漬物に困らないでせう。鈴木と云ふ農家は、ここから丁度千四百歩の所にあります。いかにも百姓らしい、まるで大地からはえたやうな脚を持つた爺さんと、眼鏡をかけた息子さんとのゐる家で、大勢で行くと余り歓迎せず、僕一人で夕方おいでなさいと云ふのです。明日も夕方、ナスとトマトともいでおいてくれる約束をしました。外の連中はここでは余り貰へないが、僕は大きい何か貰へます。酒のせい（せ）かも知れないが、僕自身この爺さんと息子さんが好きなせいもあると思つてゐます。

八月一日、晴。

此の頃よく眠つて、大てい六時半に起きます。小使さんはもうぼつ／＼飯を終つて、僕が起きて下の便所へ行くと「火があいてますよ、さつきからあいてゐるんですが、寐てゐるのを起すのも悪いと思つてね」と云ひます。だからあはててジャガを洗ひ、メリケン粉をとぎ、ナスをワ切りにして、先づジャガをゆでます。ゆでて湯を切り、そのまゝ再び火にかけて塩をふる、と云ふやり方を教へてもらつて、中々うまくなりました。かうすると水っぽくないおいしいジャガが食べられます。キウリをまた一本、生でかじりました。トマトも豊富です。

今日、本室から魚粉が届けられました。本室では、僕がこの頃ヒゲをそらないので、自炊の栄養不良だらうからと云つて食ひ物の心配をしてくれるのです。この魚粉も、中々おいしい魚粉ですが、僕にだけこつそり届けられたのです。

今日久しぶりに銀座へ出ました。白木屋の朝ちゃんを訪問して、この間の靴下のお礼を云ひました。今日は醬酒（醬）の素（粉）をもらひました。何だか人に貰つてばかりゐるやうで、悪いやうです。

銀座は更にひどくなりました。食物も、オリムピックなど半月前と比べてさへめつきり粗悪になつて、それさへずい分並ぶのです。買ひたいものは何にもありません。人間ばかり通りにあふれてゐます。半分あきらめたやうな、それで

て物欲しげにキョロ／＼しながら歩いてゐます。斎藤さんで異動申告の印をもらひ、大家さんの竹輪事件のおわびをし、辻岡さんでも同じことをやり、それから大家さんで愚痴をきかされて、表札をはづし、大皿や花瓶その他をふるしき包みにして、今度は大塚さん大野さんへもあいさつして引上げました。竹輪事件とは前便で書いたかと思ふが、竹輪の配給があつたのを、大家さんで僕の家の分三本(三人分)受取り、二本をマノさんへゆづり、あとの一本を、辻岡さんと斎藤さんとへ行つては「菊池さんへ届けてあげろ」とわめき立て、辻岡さんがバケツの水をぶつけかけようとした、あの事件なのです。どの家へ顔を出しても、まづ「待つてゐました」と云はぬばかりに竹輪の話をきかされました。大家のバアちゃんのヒスぶりには、皆もあきれてゐるやうです。とは云へ、僕がうつかりして「配給物はそちらでよろしく処分してくれ」と云ひおくのを忘れたために起つた事件なので、専ら僕の手落ちをわびておきました。

町会から三河や、日ノヤ、米屋(米屋の爺さんは「菊池さんは自由時代からのおとくいで、どうも長い間お世話になりましたね」と云ひながら、実に面々な通ひ帳の整理——廿四日に二人を異動させ、廿八日に廿五キロ配給され、八月一日からパン食をやめ、八月二日に転出と云ふヤヤコシサ——を「これは大変だ」「こいつは大変だ」とひょうきんにさわぎ乍ら気嫌よくやつてくれました)、それから下の亀屋、炭屋、それから参道の新聞販売所、これだけまわつて、歩いて渋谷に出、本屋を二、三のどいて午後五時に帰りました。所が二階に水が出ないため身体がふけず、とにかく、朝つくつたオヤキパンとジャガとを食べて、午後の九時頃になつて漸く水が出たので、すつかり身体を石ケン洗ひしました。

今朝あなたの手紙と森ちゃんの便りが届きました。今日は疲れたので、あとは明日。ではおやすみ。

謙一

### 幸子から謙一あて(一九四四年八月一日の記・消印)

廿八日附お手紙有難う。引越は随分永くかかつたんですね。あんなに整理して何も物がなくなつてゐた様でも、随分いろんなガラクタが沢山にあつたんですね。どうもごくらう様でした。本当にさぞ／＼疲れたでせう。こんな時甘いものでもあれば。

お砂糖は七月分は配給ありませんか。こちらでもぜん／＼砂糖の砂の字も音沙汰ありません。それでも二日位前業務用が

五十七匁配給あつたようですが、皆てんこものになつたようです。

お菓子も果物も卵も砂糖も粉も、一寸めづらしくはいつたと思つても、おぢいちゃんてんこばかり。たまにはシヤクにさわつて来ます。あんなに無駄に使ふ位ならー私が有効に使つてやるものを。桃もりんごも一寸かぢつちやあちらこちらに捨てたり、おやきなんかも手でもみくちやにして、ふんでしまふのだから。

今日は三尾貫つたすてきもなく立派な鮎の塩やきを気にいらぬと云つておぢいちゃんの分まで、たたまにほうり投げて、其の上をころがつてあるきました。猫は大よろこびで、ウーくニヤゴく云つて、又もや思はぬごち走にありついた次第、いくら子供でもあんな事をすると、本当に嫌になります。

先日来からM・E伝(原文)よみ始めました。とつつきわるいと思つてゐたのですが、思つた程でもなく、相当興味を持つて毎日すこしづつ続けてゐます。今度また時間割が変更になりました。リンカーンも一週に二度、二時間やつてゐますが、一今日で二度目、写真入りの一ページが二回がかりです。地代論ユダヤ人問題なんて変でせうが、波多野入門をよんでゐるとき、どうも地代があまりよく納得出来ぬのでゐたところ、これを見つけ、一寸みたらわかり相なので、エイ、よんでしまへ、と思つてくり入れました。それからローザの入門も経済史のところからチヨイく。

9-10	10-12	2-3	3-4	7-8	8-10
月 リンカーン	波多の経済入門	地代論 アダムズ アメリカ史	M・E伝	ユダヤ人 問題	小説・手紙その他
火 英文法	アメリカ史(K)	アメリカ史(A)	〃	〃	〃
水 英文法	アメリカ史(K)	アメリカ史(A)	〃	〃	〃
木 リンカーン	波 経済入門	地代論	〃	〃	〃
金 英文法	アメリカ史(K)	アメリカ史(A)	〃	〃	〃
土 英文法	アメリカ史(K)	アメリカ史(A)	〃	〃	〃

日 サーヴィス・デイ(一日、お勝手、掃除、センタクその他サーヴィスする)



ざつとこんな風です。日曜日は勉強は一切やめて、大童で働いて、お母さんにサーヴィスして、其の代り月一土までは、普通掃除(朝二階)、ふとん□き、たゝみ、夕方掃除でかんべんしてもらふ。其の他、代筆は何時でも引きうける、と云ふ事にしました。昨日の日曜(廿日)は、白緋―これはあまりにいたんでゐるからときました。さうして洗つて、アイロンのしをして、あなたのパンツ二枚作りました。サラツとして着持よいと思ひます。但し、ひもがなくて高価なゴムをつけました。小さいと不二ちゃん(たふとん)が云ひますが、小さかつたら私のにするから返して下さい。今日の月曜日はヨ定通がんな張つたので、とう(たふとん)く四時から一寸と思つてたみにのびたら十五分か二十分たちまちトロくとしてしまつた位、頭がポッとなつてしまひました。

アンナ・カレニナ、あまりあなたが感激するので、二日、三日、夜ねる前によみ、今第四巻にかかり、ウロンスキイとアンナがイタリイに行つてゐるところまで(尤もこちらには四巻までしかありませんが)す。アンナ―あなたの云ふそれ程、私にはあんなの合一(ごいつ)を慾する意慾はくみとれません。カレニニに対しても中途半端なくしみを持つてゐる様に思へるし、ウロンスキイにも中途半端な愛情で対してゐる様にみえます。そして、それも無理ない様に思はれません。私はむしろドリーに心惹かれました。疲れ切つてゐるかわい(かわい)いドリーに。ドリーにもステイワ(ステイワ)を不まん足にさせるものがあつても、ドリーの体力では、あれ以上はのぞめない。

パクストンボーイズ運動や、トーマス・ヂェファーンソン、パトリック・ヘンリーたちの民主主義運動、レギュレイター運動等、精しく知りたいと思ひます。ほん訳されたもので、こちらに来てゐるものうち何かあるでせうか。至急御一報願ひます。

ペインのコンモンセンスは矢張り原書だけですか。アダムズの米国史はあなたはどんな風に解釈したか、私には今までのところ、大変立派の様に思へるけれど、一寸きかして下さい。

### 謙一から幸子あて(一九四四年八月二〜三日の記)

八月二日晴。

今朝、パンツ、白すぼし、ごましほ、赤ヂ(あか)ソ、茶等受取りました。御心尽しを何より有難く思ひます。猛烈に照りつけて、その太陽の熱射へとび出せば、地面へ押しつぶされて了ひさうな、さう云ふ午後、今日も原宿へ行

かねばなりませんでした。昨日、炭屋の通帳を忘れて行ったために無駄足ふんだので、今日は渋谷からバスで先づ炭屋へ行つて手続きをすませ、斎藤さんで集成切符をもらひ、辻岡さんで湯タンポ、丈さし(ジャージ)、雑誌類等を受取り、三河屋でシヨウ油とミソを買ひ、山陽堂で勘定を払つて、四時半に帰りました。

今日、この小使さん(三十六才)に召集が来ました。十日入隊(東京)。

夕食(ジャガとむしパン)後、午後七時少し前に、例によつて散歩に出ました。まだ日がくれ切らず、樹木や畑の緑も固有の色を見せ、西空では甲府盆地のあたりに上昇気流が物凄くて積乱雲が物々しく湧き上り崩れ、或ひは雄大なカナトコ雲になつて入日にアカネ色にふちどられつつ天空へのびひろがり、その他は巻雲が空のト□アル一杯になぐり描きにかきちらされてはゐるもの平和な、昼の炎熱とまるで無関係なやうな静まりやうです。畑にはまだ／＼農夫が黙々と草を刈つたり、恐らく夕飼(ヨコ)のおさいらしいなすびやきうりをもいだり、ユゲ立つタイ肥をつみかへたり、オカボののびた葉を鎌で切つたりしてゐます。玉蜀黍畑を夕風がわたると洗はれるやうな爽快さを感じます。

鈴木さんの所で、ナス五百匁、トマト一貫五百匁とつてあつたのを受取りました。見事なナスで「焼いてあがんなさいよ、大きいのを選んでおいたから」とふるしきにつつんでくれました。金三円也を払ひました。二貫目下げて帰るのは相当重いです。明日照子チャンが寄ると云ふので、あげるために余計買つておいたのです。

帰途はもう木立の緑も黒く、西空だけにほのかな明るさが残つて、アークトック、スピーカ、アンタレス、ヴェーガ、アルタイル等が見える程でした。月がステキに冴えてゐます。この辺は屋間水が出ません。井戸水をバケツに二杯とヤカンに一杯くんで二階へ持つてあがり、それでナガシの所で身体を石ケンぶきしてさつぱりしました。買つて来たトマトの赤いやつを二つ三つ水で冷してかぶりつきます。ラジオは今日はずまらない。

ネールの自伝とゴリキーの四十年とを読みはじめました。校正と原稿とがあるので、さう進まないけれど、面白い。読みれば送ります。ネール(ネール)と云へば、昨日ツル田君(伊藤書店)が、「竹村和夫と云ふ人はどんな人ですか、御存知なんでせう」と云つて、「菊池さんがネール自伝を読んで迎も面白かつたとほめてくれたと云つて喜んでゐるさうですよ、面白かつたから奥さんに送つて読ませるんださうだと云つて」「所が実は、本を買つてそのお礼に、大変面白さうですね。僕が読んだらフラウへ送りませうと書いただけなんですよ」と云ふ風な会話がありました。竹村君、少しスサんでゐるらしく、ツル田君もちよつと信用おけない人ですねと云つてゐました。何でも直接知つてゐるのでなく、書店の女の子の友達の子が竹村君の所にゐて、その女の子同士の会話から知つたとのこと、あの中江兆民の孫にあたる

妻君と、離婚話が持ち上つてゐるさうです。この間ここへ電話がありました。

八月三日、晴。

今日も暑かった。風の方向が西で昨日と少しちがつてゐました。夕方銭湯（原宿の時より少し遠いが、カランが多いし、余り混まないらしい）から帰つて、気温を見ると、廿八度以下つてゐましたが、日中は三十何度だったにちがひない。溜め置きの水が廿六度です。所が、この二、三日水道の水が出なくて（階下は夜と朝と出ますが、階上は廿四時間を通じて一テキも出ない）、井戸水を汲んで来ますが、それは一六度です。一六度でも、手をしばらく入れてゐるとしびれる程です。

今日午後テル子ちゃんもムツちゃんも来ました。此の間から、トマトを買つておいてあげるから、電話をかけて寄んなさいと云つておいたのです。オバさんはまた殆ど寐つづけらしいです。胆石です。テル子ちゃんが一切やつてゐるやうです。この間訪問した時は、その二、三日調子がよくて、オジさんと他処を訪問した留守でした。トマトとナスとキウリとを約一貫目近く持たせました。ムツちゃんがナスを持ちました。ここで井戸水で冷したのを食べさせたら、迎もおいしがつて、ゴチソウサマとていねいにおじぎしました。

今日で校正百七十頁を終わりました。明日また百頁ぐらい持つて来る筈。大いに印刷屋を督促してゐるのださうです。ツル田君も僕も、召集の来る迄に出しておきたいと一生懸命です。それでもオツツクかどうか。

今日、ダイヤモンド編輯長の松沢氏から電話で原稿を依頼して来しました。あそこで出してゐる何とか日報へ連載したいと云ふのです。この間の慶応クラブでの講演の内容です。とにかく来週火曜日銀座で会ふ約束をしました。

異動申告は厄介で、まだ完了しません。明日、塩を買ひ、三河屋で原票をとつて来てから、どうにか完成するでせう。午前中に行つて来ませう。

今日の食事。ジャガゆで、オヤキパン（信州でいただいたメリケン粉をまだ使つてゐます。あと袋に半分あります。僕は結局米代替のメリケン粉六日分と云ふ怖るべき配給のはがれたのですが、さうなると多少残念です。こんな風に水や火の便の悪い自炊には、米よりメリケン粉の方がハルカに簡単でいいです）、ナス油やき、ナスと小さいジャガと大豆と白すばしとの煮付、キウリの生、トマト。今日風呂で目方をはかると十三貫五百を越えてゐました。カクシヤクたるものでせう。

僕は相かはらず人と接するとセツカチでいらいらと怒りつぽくなります。但し相手が百姓とか運送屋とかその他の勤労者であると、実にゆつたりしたおだやかな同情深い気持になります。貴女へ書きたいことが大分たまつて来てゐますが、明日からにませう。今朝オハガキ受取りました。ではおやすみ。

謙

八月三日。一つ書き終つて、今夜はねむくないので又書きます。

十年前の手紙にあらはれたあの頃の元氣な陽氣なハツラツとした生活への郷愁、それはよくわかります。だがその郷愁の甘美の中へ、事の本質への批判を溺没させるべきでない。

あの頃のあなた方の生活はたしかに生氣にあふれてゐた。だが、それは、あなた方の青春もあつたとはいへ、一つには、時代がまだ個人の自由な生氣を容れる余地があつたのです。僕から見れば、あなた方のあの頃の生活は、生と云ふものに頼つた不安定な陽氣さ、観念的な生活緊張に思へました。生と云ふものは、人がそれによつていかなるよきものを意味しよう、結局あいまいな、内容空疎なものです。生と云ふものは、真に確乎とした前進的な戰鬥的な現実的な見透しのある理論と結びついてのみ、内容あるものとなるのです。「生」とはいはば「欲望」のやうなもので、「欲望」とは心の強い傾斜の一つであるが、それ自身では明確な内容をもたない。欲望は現実の正しい認識と結びついて始めて、一個の具体的な内容をもつ。たゞ欲しいと云ふだけでは具体的な行動は生れない。何を、いかなるものを欲しいかと云ふことがはつきりして、始めて具体的な行動に發展する。

あの頃のあなたには、生のハツラツたる躍動があつたが、その生を真に自信あるたしかなものたらしめる現実の認識があつたとは僕には見えなかつた。さう云ふ現実の認識は、あなたのその後の生活と勉強との中で世界觀へと獲得されて来てゐる。その意味で僕には、今あなたが、どんなに憂愁にとらはれ、自己嫌惡に囚はれたとしても、あなたの生活に信頼出来る。僕は、あの頃のあなたの理性には、あなたの感情に対するよりは信頼し難かつた。あなたの生を信頼し得たが、あなたの人間としての生活、理性的生活にはまだ信頼し切れなかつた。今ならそれが出来る。あなたは今、世界觀をきたへて行くことも押し進めて行くことも出来る。それだけ精神に弾力があり、基本的な正道をしつかり保持してゐる。従つてあなたの手紙にあらはれたり、ゆつくり自分の思想を言表したりする時に、既に現実の弁証法の原初的把握を認められる。いはば一人立ちして独自の進む起動力と方法を既にとらまへてゐる。(あなたが人々と雑然たる会話をする時は、セツカチで誇張や感情的言辭が多く、その点ではかつての方が話が面白いが、まじめな話をする時は、

かつてよりもこの頃の方がはるかに若々しく弾力的で、多少のセツカチはあるがとにかく理解力がはるかに進んでゐる。かつては、理論的なことについてはあなたの理解力に柔軟性がなく、また精神の若々しい吸着性も乏しかった。）

これがあなたのここ二、三年の精神的努力の成果です。その成果を自分ではつきりと確認する必要がある。さうすれば生活への自信が生まれ、例へば僕についても僕を信頼して、この困難な時期を生きぬけるのだと思ふ。

僕もこの二、三年に到つてはじめて自分の学問に自力で進む自信を得た。それはあなたとの生活の成果である。あなたはそのことをよく知つてゐる筈だ、この二、三年、あなたと折にふれて話したことを想ひ出してくれさへすれば。

僕は、我々二人が、二人の八年間の生活を通じてこれだけ成長したのだとはつきり言明出来る。そしてお互ひに、お互ひの成長を夫々お互ひへと相負ふてゐる。

この間中、僕は時局と自分の生活と自分の仕事とのつびきならないカットウからいら立つてあなたへあたりちらし、あなたの僕に対する関心の稀薄、殊に僕の仕事への無関心をせめたが、今はあなたこそ僕の仕事の第一の理解者であらうと云ふことに自信が出て来た。僕は自分の本を果してどれだけの人が本当に理解してくれるか甚だ悲観的な予想をもつてゐるが、羽仁氏、北山氏、小此木氏、早川氏、牧瀬氏（但し今の彼はよくわからない）、伊藤氏、北条氏ぐらいは理解し評価してくれるだらうと思ひ、あなたもこれら少数者の一人であることを確信してゐる。北山君が去年、彼の論文への僕の批評をあんなに喜んでくれたけれど、僕も若し羽仁、北山、小此木氏あたりからあの程度の理解ある批判をもらふことが出来れば、戦死しようが何しようが心残らない。あなたが理解してくれたら之等の諸兄からもきつと理解してもらへるだらうと考へる。之等の人達の精神の働きにあなたや僕の精神の働きと何らか共通のものがあるのを感じる（無論共通しないものもずい分あるが）。中島君と永島にも生きてゐたら同じことを云へたらう。（T子さんはちがふ）。だからこそ之等の人達を、たとひ始終会ふのでなくても、心の友と云ひ得るのです（小此木君はどこがちがふやうだが。北条君もちよつとちがふ所もある）。そして心の友と話す時は、僕はちつともセツカチにならない、自分でも驚くほど豊かな、弾力ある、柔軟な、自由な気持で話したりきいたり出来る。あなたと話して僕がセツカチになるのは、まだ多少スキがあるのかも知れないが、他方あなたへは僕の要求が特に大きいせいもある。

他の種類の人々と話す時は僕はこの頃ますますセツカチで自分でもいけないと思ひつつ、ついカンシヤク持ちな話しかたをして相手を侮辱したり、自分で不快になつたり、結論へとび込みすぎたりします。何だかはじめに書かうと思つたことと、書いて来たことが、まるでちがふものになつた。今校正してゐるので、つい

自分の本が僕の思考の中心に入りこんで来て何でも本に関係したことにしてしまふ。

十年前と今と、僕がかはつたとあなたは云ふ（尤もうそを云つたり八方美人的だつたり気が多かつたり、さう云ふことは一向かはらないのだらうが）。どうかはつたか。

十年前には僕は人なつこかつた。到る所へ友を求めた。自分の内的生活をうちあげ、相手のそれと合一出来るやうな、さう云ふ友を。だから、云ひしれない寂リヨウ感と人恋ひしさで一ぱいだった。さう云ふ人恋ひしさから得た友は、永島、浅原であり、T子さんだった。ついでマキセ君であり新庄君であり、中島君であり、あなただった。そして正直なところ、或程度満足な相手としては、永島、中島両君とあなたとだけであつた。（その中二人が死んだことは痛嘆）。そしてあなたとの結婚によつてこの時期が終つた。僕があなたへ始終求めたものは、全的な合一だった。それはアンナが求めてゐたやうな、けれども少しディアレクティブなものだった。さう云ふ熱求の満足と不満足との交錯継起が、あなたとの生活だった。さう云ふ継起を通じて、二人の生活は大体予期通り進んで来たと思つてゐる。

所がこの二、三年来僕に学問的生活が出来た（それまでは学問でなく教養にすぎなかつた）。その点で新たな要素が我々の生活に生れた。あなたは之をすぐに理解出来なかつたのは当然かも知らぬ。ここから僕のあなたへの要求が一だんと多くなり大きくなつた。それがあなたへの不満ともなり、前便でのべた感情の冷却ともなつた。そして仕事は僕をセツカチに、わがままにし、その点でもあなたを反撥した。だが今、あなたの精神の弾力性と前進とを確認して、その不満の克服の自信を得た。

十年後の今、あの頃とちがふ点は、その学問乃至仕事と云ふ面、それから人恋しさ、あなたを得て落ちついた点、却つて仕事のために人嫌ひになつた点、あつさり云ふと之だけです。

蚊がひどい、今夜はとくべつだ。もう十一時半。ねませう。  
之からのあなたへの手紙を僕の精神生活の覚え書きにもしますから、とつておいて下さい。あとで系統づけるつもり。ここへは書いたものを残さない方がよささう。

幸子から謙一あて（一九四四年八月四日付け、同消印）

度々のお手紙誠に有難く拝読致しました。

あなたの方で分もよく解つた様に存じ、又、私の現在の位置も納得出来た様に存じます。あなたの其の度毎のお手紙に一、一、相對する手紙を書くには書きましたが、まとめてと思つて、抽出しに入れてゐたと思つたのですが、探しましただが見当りません。まともになく、のべつに書き立てます。

あなたの云ひ分は解つた。無理解やつつばねる態度は確に私のわるかつた点です。それは正當に認めます。今度は私の側の云ひ分として、何故当時その様に私の欠点が最高潮に達し、全面的に押し出されてゐたかを、あなたの方では今もつて考へてゐるないこと、一其の点、もう一度御考へ願ひ度く存じます。

前便にドリーに同情した、と書きましたね。何故かと云ふと、ドリーは結局、チャンスです。ドリーを通じて、私は妻と云ふ者、伴侶と云ふもの、そして女と云ふものを感じたからです。ドリーの様な善良な女でも十分健康（彼女に課せられた責任を充分果すためには）でなかつた事が、疲れ易いことが、思考力までもうばつてゆくこと、そして目の前の事に丈追はれて夫の欲する処を察する事が出来ず、知らず／＼の中に、ドリーをとりまく生活全体に恐ろしい影響を与へてゐる。そしてそれは彼女自身をも、悲しい境遇に落してゆく。

そんな事を思はずにはゐられなかつたからです。私はドリーの様なやさしさも善良さもないし、六―七人の絶えず見てやらねばならぬ手のかかる子供もありません。

私はあなたのいら立つてゐた時―まさしく私も身体も精神も疲れ切つて居りました。私は其の時、あなたのいら立ちを知つたが、それが何処から来るかを考へる余裕もなく、要求をやさしくうけられる余地なぞまつたくなかつた―程、疲れてゐました。身体の疲れは即ち心までも消極的にしてしまふのです。私自身、頼（たの）じてほしく、身心をあげてよりかかりたい要求で充ちてゐました。

あなたの云ふ通り、S夫妻との共同生活はマイナスでありました。私一人にとつても、其のすこし前から始まつてゐた身体のスイ弱に、あの人たちとの生活は更に拍車をかけ、彼女たちのヒステリーのフニキは、私をもヒステリーに駆り立てました。

併し私の立場、よんどころなくではあつたが、彼等を吾々の生活に呼びこんだ事、彼女は私の妹であること等が、私をして彼女の様に気楽にヒステリーのばく発をさせ得なかつた事、あなたに対する―勉強の邪まをする事のすまなさ等も加つて、珍らしくもこらへると云ふ事を（しかも不自然に）やつてゐたこと等、―彼女たちが去ると一諸（もろ）に精神のキン張感も一度にときこはれてしまつて、自分の押へてゐたファンマン的ヒステリーの感情の洪水となつた次第でありました。

さうし乍らも、これでは全く真実ではないと心苦しく、「勉強する事」を楽しむよりと云ふよりも、むしろ逃避場としての様に、ものぐさ、イージイゴイングを極力避け乍ら、馬車馬の様に必死に一路英国史とシェークスピアに駆け寄り立ててゐた次第でありました。今考へると、勉強に何故あんなに、文字通り馬車馬の如く、自分でむちをふりまはし乍ら、狂気の様に何物をも反りみるいとまなく突進したか、とも思へます。あんなにあせらずとも、身体を休めて気を落ちつけて、二人の生活を安全な軌道に乗せてから——とも思ふのですが、それは先日あなたの云はれた通り、私の勉強と云ふ考へ方の誤りから発してゐた事だと、今は考へられます。つい先日まで、即ちあなたから勉強と云ふ事の真の目的を話されるまで、私はとに角何も知らないんだから知らねばならぬ。知らねばならぬ事は絶べきの如く目の前をまっくらにする程巨大に立ちふさがつてゐる。一分も立ちどまつてはゐられない、さう思へて、併も前々からあなたによく云はれた、私の不勉強癖を激しく後悔する心も起きてゐたし、大金さんたちとの共同勉強はそれ自身すばらしく面白く、一分も立ちどまりたくない程、よんだり書いたり考へたりする事に充ちあふれてゐたこと、すこし知るともつと知り度い慾望をあほり立てられること、——さうしてもう一ツ重要な事は、ルカツチに依つて知つた馬鹿の一つ覚えの如き後退的モチ、グと云ふ觀念でありました。

生理的に最も当時必要であつた休息すら、私には後退的モチ、グに見えたのでありました。さうして勉強する事は、一歩くあなたへ私を近づけることであり、私の勉強の延長は、あなたの仕事の理解に發展してゆくものであると信じてゐました。さうして胡張の様ではありませんが、私としては真実にコンシンの努力を傾けて、勉強くくと連呼し乍ら息もたえくくと走つてゐた次第でありました。

そして利ちやんの来た事も、更に又、私の身心のフタンとなりました。利ちやんは『世話をしてあげなくてはならない』種類の人に見えたからであります。彼も又、私たちと同様、入試と云ふ怪物のつめにかつちりとつかまれて、他を反り見る精神の余佑のない人であり、性質から云ふと明朗ではありませんでした。彼の長所は当時の私には私の身心をよりなやますものと思はれました。私は当時彼との生活は嫌でたまりませんでした。さうして其の様な事の積り積つた結果は、私をしてあなたの(へ脱)フンマンをより一さうつのらせる形をとりました。

『信州へ帰る』と云つたと云ふ、あなたにとつては決定的な響を持つ言葉も、其の時のその様な、自分でも一寸もわからない現在の一切のふんまんへの感情を、其の様な形であなたに向つてほとばしらせた訳であつたと存ぜられます。こと事を云はれる毎にほんとに云つたかと考へる程、そのことを覚えてゐません。それに対してあなたの怒り、又それ



に反撥する私の感情、その又反射、くくと云ふ風に凡ては破壊的に進行して行つたものと思はれます。

—あなたが今度の手紙の中で、しばく指摘してゐる平等の觀念—は、あなたにとつてはあの様に作用してゐたのかも知れませんが、私の方では全くちがつてゐます。疲れてゐて身体を動かす事は嫌でくたまらぬ乍ら、併し仕事に熱中してゐるあなたを、それに引きずりこむ事は、大さう気の引ける事である、だが事實は何もしたくない。併し、しなければまちがつてゐるんだ、と云ふとに角一応は反省の形が出来て、自責の念が起る、—併し中々思ふ程出来ない。—眞実は自分へのふんまんが知らずくあなたに又向つてゆき、家事的雑用をあなたにもふたんさせたくなり、遂にはフタンを強要する、と云ふ風であつたのです。

平等と云ふ事には、私はあまり事實とはわかれてはゐなかつた次第であり、むしろそれはしばく当時あなたによつてあほられた形であつた、—私にとつては良い口実を与へてくれた様な結果であります。

以上の進展は、其の後何か一つ内心嫌々乍ら家事的雑用をする毎に、あなたに向つて恩きせがましくもなり、私が掃除をした、私が炊事をした、と数へ立てる事になり、勢ひあなたも朝の炊事は僕がした云々と、二人で指折り始める事になりました。

—現在は身心共に余祐あり、疲労はなし、其のためか又は他の理由からか、不当な小言や嫌味を云はれても、云ふ相手の状態も考へられるし、一、一、怒つたり反撥する程の事は一度も経験致しません。勉強中らちもないお喋りに無理に引きこまれても、困るなどと云ふコンワークも感じません。それはそれでよし、と云ふ心持であります。

まづ、これで私の立場から如何に疲れること—即ち充分体力のない事は悪い結果を惹起する事であるかを、事実を以つて、うそや胡張なしに証明致した次第であり、ドリーに対する同情の程も、—あなたは多少解つて下さつたと存じます。さうしてこの事—(私の考へ方から云へば、私の当時の生涯に於ける始めての疲労が原因となつた愛情の冷却、夫婦間のソゴ)は、こちらに來てから解つたと云ふ事ではありません。病氣になつて床について、身体も精神も多少の余祐を取り戻した時、既に感じ始めた事でありました。このまゝほうつて於いてはいけないと感じ始め、つづいてあなたの云ふ私への不まんの原因にも及んだ次第であります。

疎解が問題となつた時—疎解の原動力となつたものを解決せずして、私一人こちらに來る事にはひどく不賛成でありました。私がどれ程嫌がつたかはあなたも承知してゐるし、利ちやんもよく知つてゐる通りであります。時局的に見て、如何に人命や財産(本)が大切であつたとしても、二人の生活の根本的なもの不安を解決せずして別離する事は、全

く吾々の生活の場合は主客転倒の感を感じたのでありました。其の解決への一步として、

『鉄工聯を辞めること、病気を早くなをすこと、身心の余祐を取り戻しつつ、あなたと利ちゃんの研究、勉強生活を第一義とする態勢へはいること、次に私自身の勉強ものんびり充実させること、荷物丈一時疎解させること』

をあなたにうるさい程云ひつりましたでせう。併し、あなたはもうそれを聞く程の心の余祐がなくなつてゐて、一切を自分で決定致しました。私の破壊から建設の方向に向つての提案を一蹴し、ますます破壊の方へあなたはまっしぐらに走つてゆきました。私はあなたのいこちと云ふか、又は自分本位の遍狭さをにくくうらめしく、くやしき情なく感じ、さう云ふあなたの態度に、私も善戦の結果（敢へてかう云ふ次第であります）、とり返すすべも失はれたと見て、貝のふたの如く心を閉ぢて、こちらに帰つた次第であります。

さうです。私は疲れを休め、余祐を取り戻し、さうしてあなたの要求もよく知り、うけいれる―即ち自分の方の非を知つて、それを是正する方向に向つてゐた。併しあなたは。そして今に至るも其の当時の二人の置かれた状態の検討が充分には出来てゐません。あなたは私一人に『ふんまんをさしむけた事をわかつた』とは云つて下さるが、―もう一歩進んで如何なる私の状態が、かくもごてく〜と二人の間にソゴを来たす事になつたか、―即ち現在の状態は―過去の兩者の如何なる状態の下に起つたかを、考へて下さるべきではないでせうか。あなた一人の状態の吟味だけでなしに、相対的に私の状態も。如何に私がハートのない様な女に見えても、―あなたの要求を無考へにはねつけたり、あなたの仕事に無条件に理解を持たぬ女ではありません。

あなたが基本的な点での愛情の不動をちかつて下さるとしても、真実の私を理解もして下さらなければ、うれしくは思はれないのです。これは云ひすぎではないでせう。さうです。あなたは外には外には見えて見える言葉や態度だけで、人を判断する事の大きな誤りを、私に度々指摘して下さいましたが、あなた自身も、あなた自身が云ふ『愛しもし、信じもする』と云ふ妻である私を表面丈で判断を下し、其の判断をゆるぎなきものとして、不動のものとして、それ以上一度も考へた事すらないでせう。

あなたは私に内心の苦しみとか、斗争（闘）とかは全く持たぬもの、と決めてかかつておるのです。何時も何時も、あなたは私を浅く、早のみこみ、感情の優位性、理性の跛行の綜合だと思つておるのです。今頃私が自己宣伝をあなたにするのもこつけないものではありませんが、―これは要するに、とことんまで追ひ詰めて考へる結果の産物でありますから―意味がすこしは含まれてゐるのであります。私の様な自信のない者は、永年の職業生活の結果、矢張り人からみすかさ

れないため、快活に見えること、多弁、高び車の口のきゝ方、即断などの武器を使つて（あまり見栄えのせぬ、使ひ栄えのせぬ武器ではありませんが）、相手を防ぐ態勢を取るものらしく、元気が良いとか云々は、天性のものでなく、相当量後天的のもの、つけやき刃であります。

あなたは其のコスチュームだけを見て下さつて—私の真実のところは、他の人々同様あまり知つてはくれませんか。いねちやんも云つてゐたとか、朝ちやんもこう云つた—とか、表面の現はれしか見てゐない彼女たちと同意見である事を、あなたはしばしば私に多少誇り顔に告げたものです。

たとへば三月末の病気の件について、朝ちやん、いねちやん、そしてあなた三人の同じになつた意見のことをお考へ下さい。私が何故『あのように悲観したか、みつちやんとよく似てゐる、極端から極端に走る』—こう云つて笑ひました。病氣になつた、スイ弱してゐると云はれて急に悲観する程は、病氣に対して私は神経質ではありません。其の他の病氣であつた時の諸事実を考へて思い出してごらん下さい。

—私の悲観、憂鬱は病氣をチャンスとしてぼんやりと乍ら考へ、且つ知つた私たち二人の其の当時の状態でありました。破壊的な方向に走つてゐる二人の状態であつたのであります。むしろあなたの愛情の冷却の点であります。あの当時の病氣でねる度毎のあなたの不機嫌、小言「女房の一人二人は死んでもよい」「邪まだから帰れ」と云ふ言葉に現はれ、<sup>(ママ)</sup>そうして其の言葉を生み出した心情を悲しんでゐたのであります。不充分乍ら、何故かうなつたか—私の側の悪をも反りみました。其の点の不充分乍らの解決への方向を提唱してゐたのです。

併しあなたは其の状態を解決に導く一切の手段は全く反り見ず、反り見る余地なきものとして、高圧的に独断的に私の病氣を主として疎解の段どりをつけ、さつさと信州へ行つて来て、考慮する余地をも全く残さぬ様にしたこと、を悲しんでゐたのであります。

今もあなたは「冷淡になつてゐる事は事実である」と人事の様に、—さうです、私一人の問題で吾関せず顔にうそぶきつつ断言してゐるのです。前にあなたは度々、私が私だけを対象に行動する、単位は吾々二人の生活である事を忘れてゐる、とよくお小言を申されましたが、—其の後私が単位を二人の生活にして考へる様になつたら、—今度はあなたの方で、自分一個の単位に変へてしまつたんですね。私は何時になつたら、—アキレスの亀とかの如く、永久にあなたの考へに合致する時はないのでせうか。

さて、大分長くなりました。私の云ひ度い事は、要するに私も人をいれない点はあるが、あなたも私以上にいごぢであ

り、私よりもあなたの方が、たいていの場合事態を悪化させる。私の方があなたよりもす、直（問題多い）にあり、今は略）である。

以上、今回の私共の（或は私の）トラブルは、これもヘーゲルの正、反、合への一現象、ディアレクティクかともうめぼれます。だとすれば、すこしは進化したのかも知れませんが。又は其の逆であるのかも知れませんが。併し現在の心境は、あなたを恨みにくくではりません。此の前の手紙の様に感情的にいきり立つてもりません。まあ云つて見れば、今、外を吹いてる風の如く、サラリとしてる―これが真実、かけねなしと云ふところです。

あまり長々と書いて来ましたから、いささかだれもし、あちこち妙なところ、本道から大はづれ、と云ふところだらけでせう。実は今晚は七時から多めに勉強せんものといきまいてるたのですが、一寸障害あつて八時半まで駄目になつたので―手紙をかく事にしたのです。

ネールのインディラへの手紙2―3よみました。中々すばらしいです。ネールは世界観的に如何なる立場の人か、よくわかりませんが―□アン・ルーンなんかより、よつぽどはつきりしてゐるし、方々で万才、よくもかう書いた、と云へるところあり、まとめ方も非常に良心的であります。さうして一番良い点は基本的な点のつかみ方が正しく、且つ非常にわかり易いと云ふ事です。

近頃は何をよんでも感心ばかりしてゐます。ユダヤ人問題（但し、これは中々むづかしい）も、M・E伝もすばらしいし、アダムズのアメリカ史もすばらしいし、あなたのアメリカ史も立派です。―（全部よんでゐないのでありますが、現在までのところでも前に研究社用を書いたのとは、矢張り今度の方がまさつてゐる如く感じられます）

下痢が30日からつづいてゐますが―そして毎日睡眠不足ですが、すばらしく元キもよく、五時に起きて食事前に掃除、食後9時までパンツを縫つたりときものをしたり、9―11½まで勉強―（今日はリンカンのほんやく）、ひる食後1½まで炊事後片つけ、1½―3½まではまたく汗を流しつつ勉強、3½―5夕方掃除、庭水まき、すつかりすまして身体を洗つて、―6読書、7―10勉強と云つたハリキりようです。

朝になつてよみ返すと、長い割に意味のうすい手紙になつてゐます。でもまあ、書きなをす時間もおしい。他ならぬあなたへ出す手紙ですから、ありのまゝ清書なし、で投函いたします。大部偉さうに、いきまいてはりますが、実際はそれ程でもありません。矢張りあなたの事を、事々に心配し気にかけて乍ら、生活してゐる次第です。

## 謙一から幸子あて（一九四四年八月四日の記）

八月四日、晴

夕方近くから湿気を含んだ風が乱暴な平手打ちであちらうちまわして、とうとう（たうとう）出窓の開いたガラス戸を一つ叩き落しなどし、何となく気持が落ちつかなくてあなたに話しかけたくペンをとらうと思つてゐたら、警戒警報のサイレンが鳴り始めました。

今朝、あなたの八月一日消印の手紙を拝受。

勉強のプログラムは中々立派です。日誌へその点数（全部をやつたのを百点として以下適宜に）をつけるといいと思ひます。

地代論はムツカシイでせうが、さう云ふものへ食ひつくことは必要です。僕もやりたいものの一つです。リンカーンをもっと時間ふやしていいと思ひます。英文法より実際のものを読む方が力がつきます。辞書をうんと引いて、わからぬ所をお父さんにおききになるといい。ローザの経済史はいいでせう。

パクション・ボーイズ運動やトマス・ジェファソン、パトリック・ヘンリーの運動、レギュレイター等についてはホンヤクだけでなく、原語のもの（ジェファソン、ヘンリーを除いて）余りないのです。レギュレイターについては僕が書いたものがあります。看護婦さんの押入れの中にある僕原稿（南北戦争）の第四節に書いてあります。あの原稿をその中読んでみて下さい。まだ未定稿ですが、第四節は独立戦争のことを書いたのですが、之を、アメリカ史の僕の年表とてらしあはせ乍ら読むと、わかるでせう（四月にあなたへ講義したものの）。その中にレギュレイターだけでなくベーンのこともあります。まだ成功してゐないが、僕の歴史叙述の一つのタイプを試みてもゐます。

アダムスの米国史は大分前に読んだので、よく覚えてゐないが、要するにアダムスと云ふ人はビアド、シュレージンガー等と共にアメリカの歴史学界の一方の権威（まだ若い）に近い人物です。ブルジョア・リベラルとでも云ふべきでせう。尤もビアドやシュレージンガーよりは一枚下の格でせう。米国史（Epic of America）は一九三一年度のベスト・セラーズの一つで、アメリカ人がこんな風な親しみ易い歴史書を有することは、うらやむべきこととされていいものでせう。だがかう云ふ形式はアダムスが始めでなく、ビアドの Rise of American Civilization がさうしたものの最大の

傑作です（一九二七年、千八百頁（上下二巻））。

所でアダムスの米国史の欠陥は何かと云ふと、歴史の發展、段階的把握が充分でないと云ふ所にあるのでせう。その結果、いやそれと同じことのあらはれとして、歴史の主体としての民衆と云ふものの力の理解が不充分です。彼等の歴史では、ブルジョアの若しくは中産階級的（ミドル・クラス）層が歴史の推進力であり主体なのです。だから開拓農民のエネルギーやそのデモクラシーをしきりに説くのですが、その場合の開拓農民とは、ミドルクラスの開拓民としては上層部です。だから南部などでは、改革派プランター（ジェファソン、ヘンリー等）の立場をこえません。独立戦争が民衆戦争であること、民衆が土地と生活とへの要求から戦争に参加したこと、之等についての分析も洞察もなかつたと思ひます。独立戦争で農民の土地要求は決定的です。それを理解しないと、独立戦争は抽象的なデモクラシー理念の実現か、さもなければ商人達の商業的利害の追求かになつてしまふ。

南北戦争に於ても、黒人と南部小農民との活動なり動向なりについて、まるで平板だつたと思ふがどうでせうか。最もひどいのは再建時代で、ここではアダムスはピアドやシュレージンガーよりはるかに卑俗で淺薄で偽善的です。云はば歴史の主体としての民衆と云ふものを理解し得ないことが、南部再建の歴史で完全にアダムスをしてんぶくさせたのです。「再建」はアメリカの歴史家の試金石です。これについては今度の僕の本に多少書きました。

アダムスが歴史の發展段階的把握に不充分であることは、その篇別構成を見ればわかる（その点ピアドもシュレージンガーも同断）。即ち独立戦争も南北戦争もアメリカ史の一つのエピソードぐらゐの分量しか与へられてゐない（第一次大戦及びその後のアメリカについて殆ど書かれてゐないことも重大欠陥）。之等二つのアメリカ史上の決定的な意義は充分評価されてゐない。云ひかへると、レヴォリューションと云ふことを理解しないのです（形式的にしか）。之も歴史の主体の把握の欠除から当然帰結されること。

結局アダムスの米国史は、歴史理論上何等新しいオリジナルなものをもたない、ただ、米国史の權威が、上手に面白くアメリカ史を叙述した、さう云ふものでせう（歴史現象は可なり巧みにとらへてゐる、だが歴史の現象の本質的把握が脆弱。現象と本質との關係）。そして彼が旧来のアメリカ史より勝れてゐる点は、ピアドやシュレージンガーにならつて、経済的部面の叙述も忘れてゐないこととせう。（だが経済を基底として、政治と文化との社会的上部構造とのディアレクティクな運動は、理論的に把握されてゐない）。

以上は僕のうる覚えによる評価ですから、間ちがつてゐるかもしれない。だが之以上のことは、あなた自身が読んで判